

令和4年度 第1回 小平市地域公共交通会議

1 日 時

令和4年5月13日（金）10時00分から11時20分まで

2 場 所

市役所3階 庁議室

3 出 席 者

小平市地域公共交通会議委員	13人（内、代理出席1人）
事務局（都市開発部、公共交通課）	2人
地域整備支援課	2人

4 会議次第

- 1 開会
- 2 「バスとタクシーのひろば in小平 2022」について
- 3 令和3年度コミュニティバス・コミュニティタクシーの乗車実績について
- 4 感染症及び燃料費高騰等に伴う各事業者の影響について
- 5 その他
ぶるべー号チョロQの作製について
小川駅西口地区第一種市街地再開発事業の進捗状況について
- 6 閉会

5 配布資料

- ・資料1-① バスとタクシーのひろば in小平 2022 概要（案）
- ・資料1-② バスとタクシーのひろば in小平 2022 会場配置図（案）
- ・資料1-③ バスとタクシーのひろば in小平 2022 当日のスケジュール（案）
- ・資料2-① 令和3年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績
- ・資料2-② コミュニティバス・コミュニティタクシーの年度推移

6 会議内容

- 1 開会
都市開発部長の挨拶、出席委員数及び資料の確認、出席委員自己紹介、傍聴者の確認
- 2 「バスとタクシーのひろば in小平 2022」について
事務局から、資料1-①～③に基づき説明
質疑なし
会長
撮影会については、バスと綱引きをする関係でバスの配置が難しいことや、親子連れが多いことを踏まえ、実施しないこととする。
- 3 令和3度コミュニティバス・コミュニティタクシーの乗車実績について

事務局から、資料2-①、2-②に基づき説明
質疑なし

会長

コミュニティバスの乗車人数は1日平均500人前後で推移している。コミュニティタクシーの乗車人数は1日当たり100人を超える日があるが、これは全国でもほとんどなく、かなりいい数字である。コミュニティバスとコミュニティタクシーの乗車人数を見ると、良いバランスの利用状況となっている。

感染症拡大前の状況には戻っていないが、市民に利用されていることが分かる。

4 感染症及び燃料費高騰等に伴う各事業者の影響について

会長

各委員から、感染症及び燃料費高騰等に伴う各事業者の影響や現状などについて、情報提供いただきたい。

委員

2021年度はコロナ禍前の2019年度に比べ8割程の収入で、2020年度が3割程減少していたので、少しは持ち直した。燃料費の高騰にかなり痛手を被っており、一昨年度と昨年度とを比べると燃料単価が25円上がっている。1円上がると1,500万円の影響があるので、3億7千500万円の経費の増となっている、かなり経営を圧迫している状況である。引き続き高騰が続く状況なので、方策を考えていかなければならない。

また、バス乗務員の労働時間に係る改善基準告示の見直しがあり、2024年4月から適用されるが、拘束時間や休息時間に係る労働時間が厳しくなる。乗務員の就業が基準に合致するように、ダイヤ改正の検討が必要となる。今の経営状況を踏まえると、減便基調のダイヤ改正にならざるを得ない。現在、営業所を回って概要説明とダイヤ改正の見直しについて意見交換をしているが、改善基準に適合するには、乗務員の就業を縮めないといけない営業所が大多数で、減便が出る見込みである。乗客の需要動向を見極めながら、2年弱かけてダイヤ改正の判断をしていく。

委員

他社と同様の状況で、コロナ禍前の2019年度に比べ8割程の収入となっている。燃料費の高騰の影響を受けており、ダイヤ改正の検討が必要となっている。高速バスの成田線はまだ運行していないが、少しでも回復するとありがたい。

委員

路線バスは2割減、空港連絡バスの成田線は運行していないが、地方高速バスは5割減の状況である。これまで高速バスの利益を当てにしていたが、今は大きなマイナスの状況であるので、事業スキームを考え直さないといけない。燃料費の高騰の影響については、他社と同様の状況である。コロナ禍前は、雨が降ると利用者は増えたが、現在は利用者が減少している。コロナ禍前より移動需要が減少していると考えられるが、その中でもバスの利用を選んでもらえるよう対策していきたい。

委員

収入は2割減の状況である。昨年末、緊急事態宣言が解除されて回復傾向にあった時期は

あったが、本年1月からオミクロン株が流行りだして一気に下がってしまった。状況は回復せず、2割減で推移している状況である。外出が増えている傾向はなく、特に夜間9時以降は駅前に人がほとんどいない状況で、深夜バスは時間を繰り上げて運行している。銀座から三鷹、吉祥寺への深夜急行バスがあるが、1回も運行していない。ダイヤ改正により経費削減し効率を良くして収入をカバーしていたが、燃料費高騰の影響を多に受けている。

コロナの影響で減便のダイヤ改正をして一時は運転手が余っていたが、現状、乗務員不足で新規採用しても応募が無く、人材確保が難しい状況である。

コメントの追加 [鈴木1]:

委員

収入は2割減の状況である。令和4年4月の収入はコロナ禍前の97%、乗客は75%であった。4月は新年度、新学期による入社、登校で、定期券や回数券が売れ、5月は天候の悪さがあって乗客数の推移は良い傾向にあったので、今後も注視していきたい。

路線バスを維持するために、貸切バスを運行しており、貸切バスの需要が無くなり苦勞していた時に、小平市から委託を受けワクチン接種会場への送迎バスを運行した。貸切バスの需要は戻りつつあり、6月、7月は予約が一杯で入れられない状況である。ただ、まん延防止等重点措置が解除されても、参加者が感染しキャンセルになることもあり、予約が多くても楽観はできない。

燃料費の高騰により燃料単価が30円位上がっており、業績が回復してもカバーできていない状況である。人手不足については、採用広告を出しても以前の程の反響はない。旅客は収入減の状況が続いており、景気の変動を受けやすく貨物へ移る人が多い。

委員

乗合バスの状況は全体的に減少傾向で、高速空港線は動いてない状況がある。貸切バスは、3月は遠足やミニ修学旅行などの駆け込み需要があり、少し回復した。団体旅行に行つて良いという風潮が生まれれば回復できるのではないかと。

バスの売りは、安心、安全、快適の3つである。これまで車両を8、9年で入替えてきたが、最近では性能が上がってきているので、10年位に延びてきた。バスの入替えをする年数を少し延しても、快適性にはそれ程影響はない。しかし、安全に関する投資経費は絶対に必要なので、収入が減少している中、費用の捻出が難しい状況である。

委員

燃料費高騰の影響については、タクシー事業者もバスと同様に受けている。対策の一つとしてアイドリングストップを徹底している。

輸送回数は、令和2年度は206,949回、令和3年度は218,995回で、月平均で1,004回増えている。無線配車は、令和2年度から3年度は257件増えている。アプリ配車も増えており、令和2年6月から令和3年3月は1,103件だったが、令和3年度は3,644件となっていて、若者の利用が増えている。アプリ配車はオペレーターが入らないので、高齢の運転手は敬遠しがちである。

稼働率は月70~73%で、運転手の高齢化が進んでいるが、若い運転手は入ってこない状況である。

コメントの追加 [鈴木2]:

委員

燃料費高騰に対する国土交通省からの直接的な補助はないが、LPガスについては補助が

あり、国土交通省のホームページに掲載しているので確認してほしい。

委員

コロナ禍によりダイヤが減便され、高速バスも動いていなかったため、乗務員は余裕があったが、制限が解除され貸切バスが動き出すと人員が厳しい状況となっている。バス乗務員は50歳以上が64%を占めている。新入社員の募集をしても50歳台の人が来て、若者は来ない。今後、労働力の確保が課題である。

組合としては、定年の引き上げや、労働者を引き留める状況をつくりたいが、コロナ禍で会社も財布が痛んでいるので、思うような協議ができない状況である。疲弊感がある中で明るい材料を取り込んで、新しい工夫をして対応していくことが課題である。

委員

安全投資には費用が掛り、売上が減少し厳しい状況であるが、法令順守して安全投資をしている会社が守られるような体制を運輸支局にはつくってもらいたい。

これまで修学旅行の交通手段は公共交通機関であったが、コロナ禍で安全を考えて貸切バスを利用する学校が出てきている。また、バス1台に多くの人数を乗せていたが、感染症対策として2座席を1人で使えるようにして、3台から6台へ発注が増えた。バスの良さを認知してもらい、需要の喚起につながることを期待している。

会長

昨年からは京都の修学旅行などの貸切バスでは、2倍の台数を使うようになっていると、バス事業者から聞いている。フレキシブルな様態に対応ができるのはバスの大きなメリットであり、それを発信していきたい。

貸切バスの法令順守を徹底し、安全対策に取り組むことが必要である。

委員

小平駅と国分寺駅間を朝2便、特別快速便を運行しているが、3月は242人、4月は301人で、1便平均15人の乗車があった。新たな発見として、これまで無かった途中のバス停留所からの乗車があり、その人数も増えている状況である。

小平市から委託を受けて、ワクチン接種会場と市内駅間の送迎バスを運行したが、乗務員にとって良い経験となった。

5 その他

- ・ぶるべー号チョコQの作製について、事務局から情報提供
- ・小川駅西口地区第一種市街地再開発事業の進捗状況について、地域整備支援課から情報提供

6 閉会

会長

それでは本日予定していた議事は全て終了し、以上で令和4年度第1回小平市地域公共交通会議を閉会とする。

長時間にわたり活発なご議論をいただき、ありがとうございました。